

# 学校・学童・就学前施設で希望者へのPCR検査が実現

生徒や先生で陽性者・濃厚接触者が判明したとき

5月の臨時議会で、八尾市議会として全会派一致で提出をした要望が実現。学校などで陽性者が判明した時に希望者へのPCR検査や学校のトイレの清掃業務の外部委託化などです。日本共産党は、検査事業の柔軟な運用と職員への集中検査など更なる拡充を求めました。

## 職員への無症状者対象とした集中検査の拡充も要望！（5月臨時議会）

今回実現したの

同時に「濃厚接

は、希望者へのPCR検査や学校のトイレの清掃業務、公共施設での体温計測定機の設置予算です。八尾市議会として要望していたものが実現をしま

した。日本共産党は質疑を行い、PCR検査をする対象や希望者の範囲など質問。「柔軟に対応を」と求め、「そのようなしたい」と答弁がありました。

同時に「濃厚接触者の定義が感染力の強い変異株に対応しているのか。」「他市では、濃厚接触者なしでクラスターが発生をした。」など不安の声を紹介し、さ

らなる感染対策の強化を求めました。

## 「無症状者対象のPCR検査をしない」に反論

学校や就学前施設の職員に対する無症状者を含めた集中検査を求めましたが、「考えていない」と答弁。（副市長）

### 市立学校および就学前施設等におけるPCR検査事業

これらの施設で、陽性者が発生した場合に、保健所から濃厚接触者に特定された方以外の児童・生徒等に対して、民間検査機関によるPCR検査を無償で提供。

保健所の疫学調査が終了後に、検査の同意をいただいた家庭に検査キットを配布。

学校や学童保育では、各家庭から検査キットを郵送。

就学前施設等では、当該施設で検体を取りまとめて、施設から検査機関に郵送。

「希望者を募る範囲については事例ごとに判断をする。」（5月臨時議会答弁）

職員の名を守ることに「保育と教育の」継続を保障するためには不可欠であると共産党は反論。今、政治の責任で、新型コロナウイルスを封じ込める戦略を持ち、ワクチン接種・大規模検査体制・補償と生活支援の3つの柱が重要であると訴えました。